遠野物語

柳田國男

柳田國男

遠野物語

大和書房

遠野物語

一九七二年一一月三〇日　第一版第一刷発行
一九八六年　九月一〇日　新装版第一刷発行

著者　柳田国男
発行者　大和岩雄
発行所　大和書房
〒一一二　東京都文京区関口一―三三
電話二〇三―四五一一　振替東京六―六四二二七

本文印刷　信毎書籍印刷
口絵印刷　三共グラビヤ
製本　ナショナル製本

乱丁本・落丁本はお取替えします

©1972 ISBN4-479-88012-7

早池峯山（はやちねさん）　遠野四方の山々の中で最も秀でた山で、三女神のうちの末姫が住むという（遠野物語２）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

物見山から遠野市街の鳥瞰　手前右の小高い森が鍋倉城址、中央の川は早瀬川、右手奥の高い山は白見山

冬の六角牛山（ろっこうしやま）　遠野盆地のどこからでも見えるので、遠野の人々にとって最も親しみやすい山。早池峯、六角牛、石神の三山には各々女神がいるので、遠野の女性達はその嫉妬を恐れて近づかないという〈遠野物語２〉

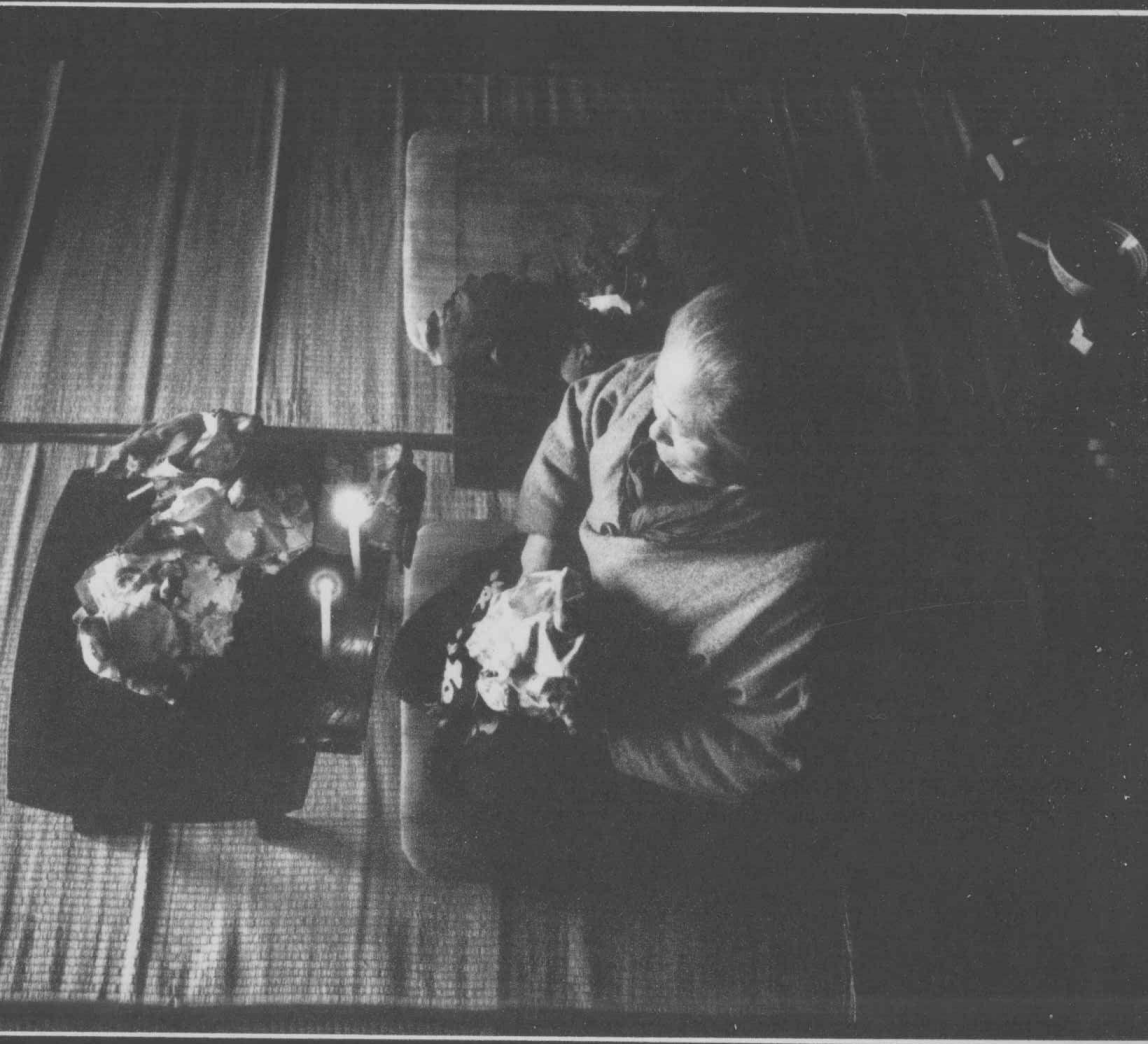
仙人峠の片岩　ほぼ垂直な高さ80ｍの岩。「仙人峠にもあまた猿おりて行人に戯れ石を打ち付けなどす」〈遠野物語48〉

昔の遠野市六日町　明治６年頃に撮ったものという。釜石・大槌からの海産物、遠野一円からの米の交換場である遠野は宿場町として栄えた。

オシラサマ　娘が馬と夫婦になったのを知った父は馬を殺してしまう。娘は悲しみ馬にすがっていると、父は馬の首を切り落してしまった。たちまち娘は馬の首に乗って天に去り、この時からオシラ神が生れた〈遠野物語69〉

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

オシラサマ　箱から取り出されたオシラサマは、取子の娘や女たちの手で、新しい花染めの赤い布をきせられ、また年に一度の白粉を顔に塗られて、壇の上に飾られる〈遠野物語拾遺79〉

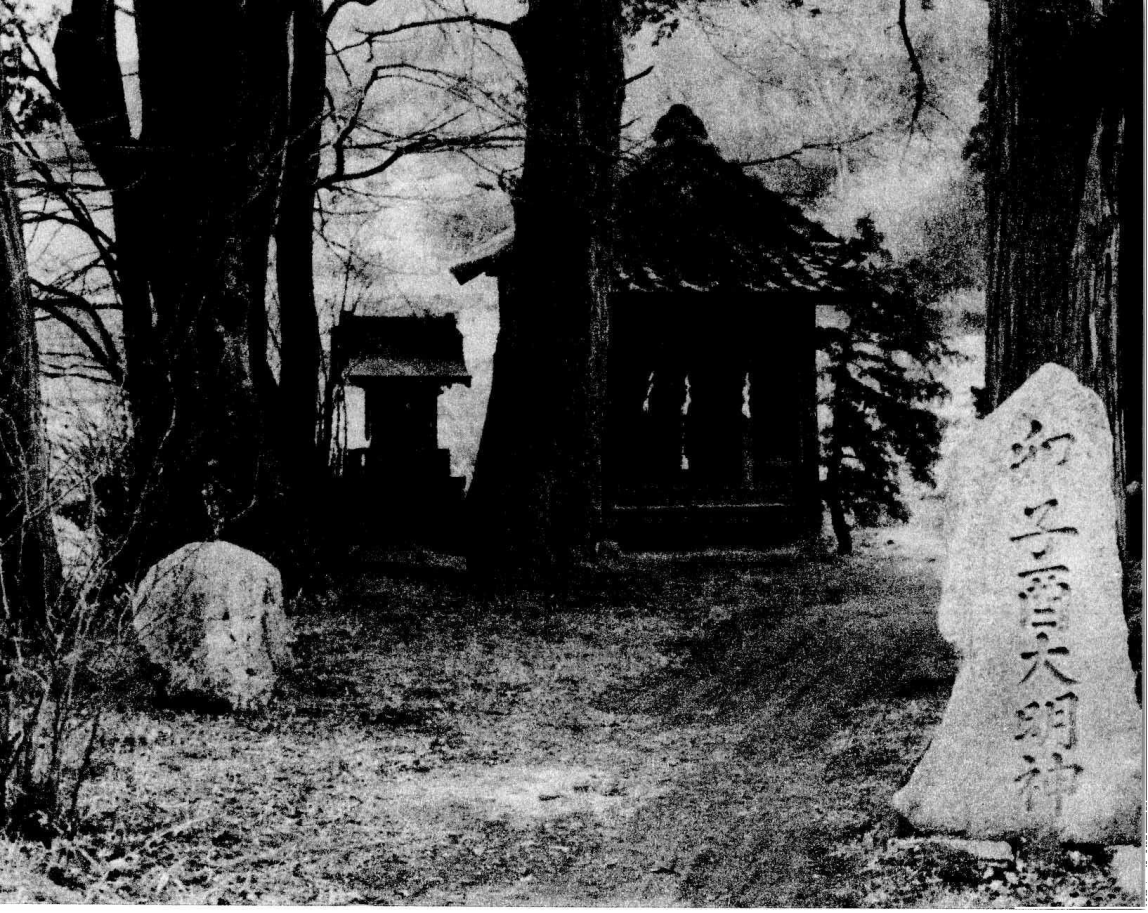


オシラ遊び　早朝仏壇の中から煤けた箱を持ち出し、一年に一度日の明かりを見る神様が巫女婆様(いたこばあさま)によって取り出される〈遠野物語拾遺79〉

オクナイサマ　ある家の田植の時小僧が昼飯も食わずに手伝ってくれた。礼を言う間もなくその小僧はどこかに行ってしまったが、家に帰ると小さな足あとが縁側から神棚まであり、神棚のオクナイサマの腰下は泥にまみれていた〈遠野物語15〉土淵町柏崎・安部長九郎宅

程洞(ほどほら)**稲荷の金精様**「コンセサマを祭れる家も少なからず。石または木にて男の物を作りて捧ぐるなり」〈遠野物語16〉

愛宕山の山神碑　遠野郷には山神塔が多く立っていて、その所はかつて山神に逢ったり山神の祟りを受けた場所で、神をなだめるために建てた石である〈遠野物語89より〉



卯子酉(うねどり)**大明神**　愛宕山の下に卯子酉様の祠がある。昔は大きな淵があって、その淵の主に願をかけると不思議に男女の縁が結ばれた〈遠野物語拾遺35〉

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com